

第 1 回新潟県立病院経営プラン検討会 概要

日時：平成 28 年 11 月 10 日（木）

場所：自治会館 4 階 401 会議室

1 開会

2 あいさつ

○病院局長

- ・ 総務省から「新公立病院改革ガイドライン」が示され、公立病院を持つ自治体に新たな改革プランの策定が要請されている。
- ・ 病院局としては、「新潟県病院事業の取組方針」を今年度中に改定してまいりたいと考えており、そのためにこの検討会を立ち上げさせていただいた。
- ・ 委員の皆様には今後の医療動向を踏まえた県立病院の役割・機能や経営改善策等について、活発なご議論をお願いしたい。

3 議題

(1) 委員長の互選について

- ・ 新潟県病院局 下條文武参与を委員長に選出。

(2) 新潟県立病院経営プラン検討会の進め方について（資料 2）

- ・ 新公立病院改革ガイドラインを踏まえて、「新潟県病院事業の取組方針」を改定するため、検討会を 3 回程度開催し、検討結果をとりまとめる。
- ・ 取組方針改定前にパブリックコメントを実施する。

(3) 県立病院の現状と課題について（資料 3）

【委員の主な意見】

○県立病院の役割の明確化

- ・ 病床機能がイメージしにくいので、病床機能のあり方が明らかになると考えやすい。
- ・ 救急医療提供体制については、地域医療病院における当直体制も含めて考える必要がある。
- ・ 県立 13 病院の中の位置づけで役割を見ていくのか、地域医療構想ということを見ると、その地域の中での役割というのをまずは考えなければならない。
- ・ 県立病院が医療環境の変化に乗り遅れて、さらに経営が悪化するという事にならないように、早めに方針を立てて、前に進んでいった方が良い。回復期病床が足りないということはわかりきっているので、それに見合ったような形にするのが、早道ではないか。
- ・ 仮に病床を減らさざるを得ないとしても、その余剰となる人員を在宅医療や外来部門に配置し、地域の実情に合った医療を提供するという事で、地域包括ケアシステムをつくることに貢献できるのではないか。

- ・ 地域医療構想や、病床機能分化の動きを考えると、県立病院内の位置づけよりも、その地域にどんなニーズがあって、現状のスタッフでどのくらいの入院患者を引き受けられるかという発想にたっただ方が、役割が明確になる。
- ・ 将来、医療を担う人たちの育成は、大学病院だけではなかなか達成できないので、県立病院群で病院間の連携を強化し、県立病院の担う機能として卒後教育に更なる協力をお願いしたい。

○経営改善

- ・ 病院の各部門がどのようにニーズを把握し、何をやりたいかとか、そのためにはどのような人材を育てていきたいかというような、各病院のボトムアップで出てくるアイディアとかそういったものを県立病院全体で確認できるといい。
- ・ 各病院に勤めている医師、看護部、薬剤部、事務部等がどうすれば経営が改善するかということを考えていくということが大切である。ボトムアップで改善・改革していくことが、効率的な経営改善につながると思う。
- ・ (県立病院では) 切磋琢磨というか、競い合いというのがあまり感じられないというところが1つの問題ではないか。
- ・ 病床利用率が特に低水準の病院や空き病床が多い病院は、地域の状況を的確に把握して、適正な規模に見直すことが必要である。
- ・ 各病院の入院1日単価について目標を設定すべきだと思う。そして、その目標をクリアするにはどうすべきか考えた方がいい。

○医師確保

- ・ 例えば、二次医療圏内の県立病院どうして、医師派遣や病床管理を考えるなど、(県立病院) 群として策を考えることが大事だ。
- ・ 県立病院間の医師の弾力的な派遣体制等で、県立病院のスケールメリットを活かせないか。
- ・ 医師派遣については、県立病院間だけでなく、経営母体を超えて(他病院との)協力をすべきであろう。県民全体の健康を守るという大命題に立てば、必要なことである。
- ・ 県立病院が運営主体を超えて連携するというのは、公的病院の役割として少しずつやっていくというのは、当然やらなければならないことだと思う。

(4) その他

○次回の検討会開催

第2回検討会は12月を予定

4 閉会